





対談

関西大学名誉教授

井上 宏 × 千年屋俊幸

テレビ大阪、関西大学卒

第1楽章

コミュニケーションと笑い

千年屋 徐々に井上先生の授業を受ける気持ちになっております。先生は関西大学名誉教授であり、日本笑い学会会長でもいらっしゃいます。

井上 笑い学会はもう15年目に入ってるんですけどね。つくってからずっと会長をやっております。

千年屋 まずは、コミュニケーションのとり方がいろいろとある中で、「笑う」あるいは「笑顔」は、ものすごく重要な要素だということから入りますが。

井上 普通コミュニケーションというね、言葉ということから始まるんだけど、実際は日常会話なんかでは表情とかね、笑顔があるかないかがとても重要なんですよ。笑顔があれば、すごく安心感があるし親しみがわくしね。

千年屋 ただ、その第一歩をなかなか自分から踏み出すことが出来ないことってありますよね。

井上 大学で1回生が入ってきたときなどは、



Profile

千年屋俊幸 (ちとせや・としゆき)

1959年生まれ。関西大学社会学部卒（井上宏ゼミ）。テレビ大阪の開局1年前の1981年、同局に入社。スポーツをはじめ幅広い分野で同局を代表するアナウンサーとして活躍。現在は編成管理部。

大教室でしょ、たくさん学生がいるんだけど見知らぬ人ばかりというとき、気軽に声掛けが出来ればいいんだけど。そのときに笑顔が大事ですよ。そうすれば声を掛けられた方も安心して話ができるという、きっかけがつかめますね。そして、笑いについての認識の仕方ね。笑いなんて…とか、笑顔があるとかないとか大したことないじゃないか…とか、笑いを軽蔑するとか。そうじゃなくて、人間が笑顔を持つてるとか笑うということは大した意味があるんだという認識は必要だと思うね。そうでないと、いい笑顔を見つけても気がつかないということがあるんです。

第2楽章

自分自身を笑ってやる

千年屋 大学に入ると、高校までの受験などからひとまず解放されて、笑うことに対して自由度が高い環境になるように思うんです。

井上 だから学生時代というのはいろんなことにチャレンジした方がいいと思うね、新しいことをね。時には恥をかくでしょ。でも学生時代の恥なんてどうってことあれへんもんね。

千年屋 自分が笑われる対象になる、これを恥ずかしいと思っちゃだめなんですよ。

井上 自分が笑われる立場に立つというときはあるわけだね。そのときに「笑いを取ったんだ」くらいの気持ちになれたらいいと思う。笑われる

ということは、何か自分が失敗したとか欠点を持つてるとかのケースが多いでしょ。笑われた自分を早く自分から切り離して笑い飛ばした方がいいわけね。

千年屋 笑われるということは相手に認知されます。相手に安心感を与えることにもなります。友達をつくるということは、自分の恥の部分をごんごんさらけ出して笑われることによって、距離感を縮めていくことのような気がします。

井上 大阪の人はそこがわりと得意なんやね。失敗するでしょ。そうするとそれを吹聴して歩いてるわけやね。ワツハツハと笑われてるわけや。

千年屋 自慢話にすり替わっているという。

井上 失敗した自分を相手と共に笑い飛ばしている、そういう効果もあるわけですよ。で、立ち上がり早いわけやね。ちょっと失敗したことで笑われてめめめするんじゃないでね、早く立ち上がらないかんわけでしょ。立ち上がるときに、自分自身を笑ってやるというのはやっぱり大事なんですよ。

千年屋 あ、自分自身を笑う…。

井上 自分自身を笑うというのは難しいんです。プライドもあるでしょ。自分自身を笑うというのはある意味では、あるがままの自分を受け入れるということかな。素直にね。皆こだわりがあつてなかなか受け入れられないね。自分は大した人間やと思ってるもんね。しかしそういうふうになら笑われてみたら、笑われた自分を早く笑い飛ばして、そうすると笑う前と笑った後とでちょっと変わるわけやね。

第3楽章

ユーモア精神を身につける

千年屋 先生は「人類の普遍的に備わっている能力のひとつに『笑う力』（笑い力）がある」と考えていらっしゃるようですが、できるだけ早くそれを開花させて大学生なら社会に出る前に磨いておいた方がいいんじゃないでしょうか。

井上 人種・民族問わず、笑う力というものは潜在的に持っているわけですよ。そしてそれぞれの環境の中で笑い能力を開花させるんです。それだけ、何を笑うかは多様なわけ。いろんな笑いがある。だから、この笑いが質が高くて、笑いとはこういうもんだと決めつけるのはよくないと思うね。大学時代は自由な時間がたくさんあるから、いろんな種類の友達ともいっぱい出会うでしょ。そういう出会いによって笑いのセンスというのかなあ…なかなかここが難しいんやねえ…ユーモアセンスというのをね、学生時代に身につけられたら社会に出てすごく役に立つと思いますね。

第4楽章

笑いの共振

千年屋 最近、世の中全体が暗く重い空気に包まれていると思いますが、そういう環境の中で笑うのは難しいと感じます。

井上 私は戦前から生きてる世代ですから、

今の世の中が生きにくいというのは少し贅沢のようにも感じてしまうわけですが、笑えない環境があるとしたら、人と人のつながりが薄れている

ということにあるんじゃないでしょうか。ひとりひとりがね、孤立化している時代になってきているんじゃないのかな。つながりを回復していくためにはね、やっぱり笑いに期待したいと思うね。



Profile

井上 宏 (いのうえ・ひろし)

1936年生まれ。京都大学文学部卒。読売テレビを経て関西大学へ。社会学部教授から総合情報学部教授、現在名誉教授。著書に「情報メディアと現代社会」（関西大学出版部）「笑いの学」（世界思想社）など。

とですか。

井上 みんなね、笑う能力を持っているんですから、それを存分に発揮するべきなんですよ。そしてひとりで笑うより二人で笑った方が大きくなるし、楽しい。共に笑えば仲良くなれるんですよ。だから、共に笑える空間をつくるのが大事なんじゃないかな。

千年屋 笑いのセンスがいい人もいるし、いまひとつよくない人もいます。共振はそういう人たちの間でも可能なんですか。

井上 中にはね、駄洒落ばかり言うてばかにされるとかあるけれども、やっぱり洒落を思いついたらみんなに紹介してしゃべった方がいいと思うね。笑いのツボというのはみんな違うんですが、やってる間に似てくるっていうこともあるんでね。だから、試行錯誤で、これは受けなかったからやめとことかあきらめずに、笑いユーモアは突破口になるんだと信じて進めばいいと思うなあ。そのうちに巻き込んでいくことができるんじゃないかな。

千年屋 駄洒落ばかりではばかにされるというところは、なにか私のことを言われているようで…でも、多様な笑いというのをお互い認め合つて、その中でコミュニケーションを深めていくという、こういう関係を築きたいですよ。

井上 私自身ももっとユーモアセンスを磨かなあかんと思ってるんですが、なかなか難しいですな、これが。で、やっぱりプロの笑いにはできるだけ真似た方がいいと思うね。このネタは使えると思たら、いただき、ということで。こないだも文珍さん（桂文珍）の落語を聞いてたらね、こういう噺したな。同窓会で久しぶりに会うたんやと。で、珍しな、オマエ帽子かぶってんな、と言うたらその男が、この帽子か、これはボケボウシやねん、と。

千年屋 ウハッ

井上 ウハハッ

千年屋・井上 ワハハハハハハハ

—共振しました、お見事—

毎日実施！ 禁煙指導

今、何かと話題の「メタボ」。基本は腹囲だが、プラス「喫煙」の項目にチェックがつけば即アウト。メタボリック症候群の烙印を押される。メタボと診断された場合、会社員ならば社内等の改善プログラムを受けなければならない。そしてそれでも改善されない場合、健康保険組合が個人に代わって罰則金を負担する。企業はそんな喫煙者をはたして雇いたいと考えるだろうか？

就活生・社会人にかかわらず、すべての喫煙者にとって、煙草はこれから一生ついてまわる問題だ。そんな方たちにぜひ活用していただきたいのが、関大保健管理センターの禁煙指導。葉の処方からカウンセリングによるメンタルケアまで、学内から皆さんの禁煙を強力にサポートする。



禁煙をサポートする禁煙パッチ

秘密結社ジャグリマ専科

12月3日(水)
16:30~公演！

■ サークル活動内容

- ・ 構成人数 約30名
- ・ 主な発表の場 幼稚園や小学校



千里山キャンパスの青空のもと、図書館横や体育館横で活動する「ジャグリマ専科」。12月に行われるイベントを目前に練習に励んでいる。「ショー形式」の演出が一つの魅力だとPRした。全体にストーリー性を持たせ、音楽を織り交ぜながら一つの作品を目指す。間近でのパフォーマンス(写真)は、見上げてしまう迫力だった。

主に小学校や幼稚園を発表先に行っているが、本番では大学生を相手にどのようなパフォーマンスを見せてくれるのか。多くの観客の目の前で、会場を大いに盛り上げ、感動させてほしい。神経を集中して練習を繰り返すメンバーたち。その成果を見逃すな。

Brooklyn304 ~アカペラサークル~

11月12日(水) 3回公演！

■ サークル活動内容

- ・ 構成人数 80名
- ・ ジャンル ジャズ、R&B、アカペラ、J-Pop、洋楽、アニメソング、ディズニー etc...

ブルックリン区はNY市の一部。比類なき文化的多様性を持ち、最先端の音楽を発信。そして地域は固い絆で結ばれている。そのアカペラ発祥の聖地と同じく、サークル発祥の場となった商学部304号室。そんな微笑ましいエピソードを聞かせてくれたのは、正式名称「Brooklyn 304」の渉外、徳増沙織さん。

現在は構成人数80人にもなるブルックリン。年2回の

サマー・ウィンターライブを軸に、豊中でのストリートライブや他大学との合同ライブなど、兵庫、京都、大阪を拠点に精力的な活動をみせている。曲ジャンルもジャズやR&BからJ-Pop、ディズニーソングと実に多彩。



11月のコンサートは3部形式。できるだけたくさんの方が参加できるように4、5、6限に設定した。ライブでしか味わえない音楽の感動をきっと呼び覚ましてくれるはずだ。

一覧 正課外教育プログラム

学生センターでは、秋学期以降も多彩なプログラムを予定しています。

今回は、このプログラムを盛り上げてくれる注目の2団体「ジャグリマ専科」とアカペラサークル「Brooklyn304」の練習風景を取材してきました。また、保健管理センターで毎日実施している「禁煙指導」についてもご紹介します。

これから実施の プログラム

- 自己啓発
- 鑑賞
- 健康
- スポーツ
- 研修会

※下記内容は変更することがあります。詳しくは各課にお問い合わせください。

TDS講習会

～トレーニングマシン使用のための講習会～
日時 毎月4回(夏季休業期間を除く)
場所 中央体育館
定員 各30名 問合せ スポーツ振興課



禁煙指導

日時 いつでも 場所 保健管理センター
定員 何名でも
問合せ 千里山: 保健管理センター事務室
高槻: 高槻キャンパス保健室



血圧・体脂肪測定

日時 いつでも ※保健管理センターは13:00~18:00、高槻キャンパス保健室は開館時間内
場所 保健管理センター 定員 何名でも
問合せ 千里山: 保健管理センター事務室
高槻: 高槻キャンパス保健室



剣道教室

日時 10月14日(火)~12月16日(火)
10:40~12:10 毎週火曜日 計10回
場所 養心館 剣道場 定員 30名
問合せ 保健体育主事会 スポーツ振興課



アカペラコンサート

日時 11月12日(水) ①14:40~、②16:20~、③18:00~ 各回約40分
場所 KUシンフォニーホール 定員 360名
出演 Brooklyn304 問合せ 学生生活課



AEDを用いた救命講習会(高槻)

日時 11月6日(木) 13:30~16:30
場所 管理研究棟3階 第1会議室
定員 30名(先着順・要予約)
問合せ 高槻キャンパス保健室 ※申込みは10月31日(金)まで



映画「NEXT-ネクスト-」

日時 11月19日(水)
場所 KUシンフォニーホール
定員 360名
問合せ 学生生活課



落語ショー

日時 11月26日(水) 16:30~(開場16:00)
約1時間
場所 KUシンフォニーホール 定員 360名
出演 落語大学 問合せ 学生生活課



救急救命講習

日時 12月2日(火) 13:30~17:00
場所 凧風館4Fミーティングルーム
定員 30名
問合せ 学生生活課



秘密結社ジャグリマ専科

日時 12月3日(水) 16:30~(開場16:00)
約1時間
場所 KUシンフォニーホール 定員 360名
出演 ジャグリマ専科 問合せ 学生生活課



ボランティアセンター学生スタッフ研修会

日時 12月下旬
場所 凧風館4Fミーティングルーム2
定員 20名
問合せ ボランティアセンター事務室



ピア・サポータ研修合宿

日時 3月中旬
場所 未定
定員 60名
問合せ 学生生活課



ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

日時 3月下旬
場所 凧風館4Fミーティングルーム2
定員 15名
問合せ ボランティアセンター事務室



自慢の企画が大集合



11月1日
10:00
16:00



スタンプラリー開催！ 名物委員も待ってます

各学部祭などが「ぴあかんず」紙上で自慢の企画や名物委員をアピール。この紙面はスタンプラリーの用紙に使え楽しみ倍増です。

統一企画構成委員会 藤本 洸介 3回生

統一企画構成委員会は今年度も11月2日、3日の2日間、フリーマーケット企画を芝生で行います。さまざまな物品が出されるので意外な掘り出し物もあるかもしれませんよ。また構成はmihimaru GTの学園祭ライブや音楽コンテスト企画の「K.U.ROCK.FEVER.6th」、恋愛企画の「Mission Love Possible」、平和のために鶴を折る「Dreams come つる♡2008」を企画。最後には、学園祭を締めくくる「後夜祭」もあります。テンションの高さで周りの空気をいつも笑いに変えてくれる藤本洸介があるので、「後夜祭」も絶対盛り上がるはず!!



法学部祭 山本 陽大 1回生



法祭では大学内で、はやりのメイド喫茶を体験できるコーナーを企画。さまざまなかわいい名前のでメイドが待っていますよ。ラッキーな方はソングレメイドに担当してもらえます。軽い飲み物の提供もさせていただきます。楽しく和やかな、ときめくひとときを過ごしていただける場所です。ときめいた後は、いつもの口癖「俺の歌を聴け!!」の山本陽大に歌をうたわせるのもありかも。周囲からは、法学部の（照英+平井堅+井上康生）÷3としてとらえられている。たくさんのご来場、お待ちしております。

文学部祭 万徳 彩乃 2回生



今年の文祭の企画のタイトルは「トラップ!トリップ!プラネタリアム!!〜インカの夜空〜」!! アトラクションがあるジャングルを抜けて、素晴らしい星空(プラネタリアム)を楽しんでもらいます。天体観測サークル「ほうき星」に入会し、古代インカ帝国の秘境「マチョピチョ」を目指す冒険に出かけ、ジャングルを通り抜けて伝説の星空を見つけだしてみよう。そしてそして、伝説といえは…、文祭一のレトロガール、万徳彩乃!彼女は、もうとにかく、ファッションにしても興味にしても、古いものが大好き。今後、ひそかに、文祭のメイクレジェンドになっていきそう…。

stamp here

経済学部祭 大山 司 2回生



経祭では、今年は、3つの企画をご用意。11月1日に「ワオーリーを探せ企画」と「極める!ボール遊び企画」、同3日には「モデル企画」を行います。企画詳細は学祭パンフレットでご確認を。とてもクールな、微妙に笑うはにかんだ表情はとてもかわいい、大山司を筆頭に経祭一同、お待ちしております。

商学部祭 赤井 孝行 2回生



商祭では、ファッションショー「the sun in the dark」とおぼけやしき「DAY OF THE DEAD」を企画。関大生モデルによる、恒例本格的ファッションショー。下ネタが大好きな赤井孝行が待っている。周囲の人にも「赤井君といえはとにかく下ネタのことしか思いつかん」と言われるほど、仲間にもずいぶん浸透している。さらに、ファッションショーに付加する形で、今年はライブもやっちゃいます。また、映像と音響と人などを駆使した恐怖の世界となる本格的なお化け屋敷も。ぜひこの機会に、真の恐怖というものを体験してみませんか?

社会学部祭 宮里 雅之 2回生



社祭のステージ外企画は、毎年恒例の屋内アトラクション。からくり屋敷と化した学舎内を、忍者【社助】と共に進んでいく。さまざまな仕掛けが行く手を阻む中、果たしてあなたは村の守り神を取り返すことができるのか。また、ここを抜け出すことができるのか。社祭の委員、宮里雅之は突如出現する面白い本能をもっている。だから、最後の最後まで気を緩めてはならぬ。階段を一気に駆け抜ける、社祭名物・トロッコもあるのだ、怖さが半端でない。だからぜひ、本格アトラクションを体験して。

stamp here

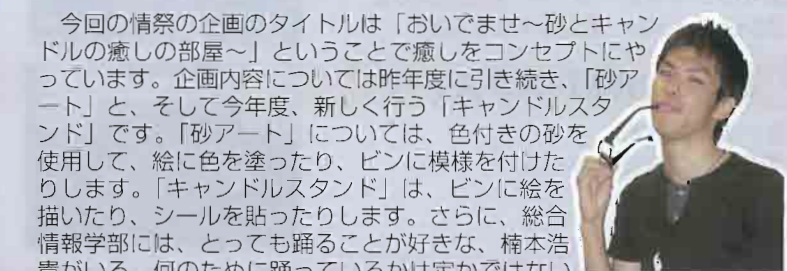
政策創造学部祭 山縣 昂亮 2回生

政祭では、今年3つのステージ外企画を実施。1つは去年大好評だった「SNAP×SNAP」をパワーアップさせ今年も開催します。去年のような、SNAP写真をその場で撮り、オーディエンスの人に対して質問を書いていただき、お客さんのみさんからコメントをいただく形式以外にも、たくさんの部門を設け、小さな写真展になるような企画になっています。政策創造学部には「将来は、絶対、総理大臣になってやる」と言っている山縣昂亮がいるよ。かなり野心的で、仲間からはベジータ的存在として扱われている。でも、実は寂しがり屋。2つ目はやはり「MY工房」。おはしにデコレーションをして、自分特製のお箸を作っちゃおう。3つ目は「暇をもてあました人々の遊び」。たくさんさんのミニゲームを用意しています。そのミニゲームをクリアすると次のゲームに進めるサバイバル形式のとてもおもしろい企画です。学祭に来て暇ならぜひここに!



stamp here

総合情報学部祭 楠本 浩貴 2回生



今回の情祭の企画のタイトルは「おいでませ〜砂とキャンドルの癒しの部屋〜」ということで癒しをコンセプトにやっています。企画内容については昨年度に引き続き、「砂アート」と、そして今年度、新しく行う「キャンドルスタンド」です。「砂アート」については、色付きの砂を使用して、絵に色を塗ったり、ビンに模様を付けたりします。「キャンドルスタンド」は、ビンに絵を描いたり、シールを貼ったりします。さらに、総合情報学部には、とっても踊ることが好きな、楠本浩貴がいる。何のために踊っているかは定かではないが、踊った後は疲れて必ず寝るといふ、かなりM的な存在。周囲からは、「踊り始めたピエロ!」とも言われている。情祭一同、皆さんの参加をお待ちしております。

stamp here

スタンプラリー 文、工、社、政、情の5祭実が参加し、11月1日午前10時から午後4時まで開催。スタンプを3つ以上集めると大手チェーン店M社の商品券など景品がもらえます。ゴール地点は政祭の企画場所、東体育館前です。スタンプをゲットする場所は文 第1学舎A棟4階、工 工学部棟1階読書室、社 第3学舎、政 東体育館前、情 第2学舎E209です。

統一学園祭常任委員会 松本 和剛 3回生

学園祭全体をまとめています。松本和剛はお金がないとはいいいながらも、いつもスナックパンを食べまくっています。そのハンガリー精神で、学園祭も盛り上げさせます。ぜひ、学園祭に足をお運びください。



工学部祭 大島 裕司 2回生



工学部には、体毛が眉毛より濃い人物、大島裕司がいる。四六時中、プロテインをペロペロと舐めていて、異様な雰囲気がある。そこで、工祭では、「お化け屋敷「沈みゆく者たちのラブソディエ」」を企画した。今年のテーマは「幽霊船」。消えた豪華客船dieパニック号…響き渡るラブソディエ。呪われたあなたは自らの手で呪いをとくための航海に出なければならぬのだ。果たして伝説の船長とは誰なのだろうか。11月1日10時からと3日9時から。皆様に恐怖をお届けしますので、ご参加お待ちしております。

stamp here



千里山を彩る4days

関西大学統一学園祭、2008年のタイトルは「関祭LOVERS」。今年も関西最多数の模擬店や多数のサークル等による研究発表、学祭実行委員によるステージ企画やステージ外企画など、見どころいっぱい。4日間のお祭りを皆さんお楽しみください！

10月31日から11月3日まで

大学の学園祭は高校の文化祭とは違う。同じ大学の学生でありながらその人の立場によって意味合いが異なる。そういった個人にとっての学園祭の違いという部分に焦点をあて、学園祭という行事自体をあらためて見つめなおした。

センスが問われる

関大OBであり、10年ほど前から関大前でGate mouth cafeという飲食店を営んでいる八子(やこ)博行さん(58)は「今の学園祭はどここの大学も似たようなことをしていて、テレビのイベントの真似事のように見えてしまう部分が多い」と、なかなか手厳しい。知的好奇心を満たすイベントがもう少しあってもいいように思えるという見方だ。八子さんが学生だったころは学園祭以外にも、講演会など学生が主体となって



八子 博行さん

専門家を呼ぶような動きが今よりは多かったようだ。そこで、八子さんに学園祭で有名アーティストを呼ぶ流れをどう思うか?とたずねると「メジャーなアーティストを呼ぶばかりではなく、学園祭がインディーズ発掘の場であってもいいのではないか」とも指摘する。また、呼ぶアーティストはある意味でその大学のセンスが問われる部分ではないだろうか、とも。学生と触れ合う機会の多い立場であるからこそ、学園祭と学生の特徴をよくとらえたもったもな意見といえる。

学生のうちしかできない

だが、学園祭のメインイベントとしてアーティストのライブを重んじている声が多い。昨年、サークルの模擬店で学園祭に参加した社会学部2回生の尾崎なつきさん(20)、関大近辺に下宿しているながらも学園祭を見に行かなかった社会学部2回生のFくん、遠方の実家通学でありながらも学園祭を見に行った経済学部2回生のMさんを直撃した。

Fくんは、行かなかった理由として「来ているアーティストや芸人に興味がなかったし、知り合いが何かをしているわけでもなかったから」と何気なく答えた。また、Mさんにしても、友達に誘われなければ行かないとしている。だが「友達の模擬店だけが目当てで学園祭に行くことはないかな」というのは尾崎さんの意見だ。学園祭自体にある程度興味がなければ行こうという気にはならないという。尾崎さんは高校生の時にも関大の学園祭に来ており、その大学の雰囲気や学生の本当の姿を見るという意味では、オープンキャンパスよりも有意義なものだととらえている。尾崎さんは、学園祭について「学園祭は学生のお祭りだし、学生のうちしかできない経験だから自分はやってみたいと思って参加した」と話す。



尾崎 なつきさん

【びあかんず 編集スタッフ】上窪太貴(政2)、榎本由美子(法1)、黒田和佳子(社2)、芝池俊有紀(商3)、中津成美(政2)、中前結花(社3)、信高佳澄(社2)

人間関係を学ぶ

「学生だから楽しめることや、学生独特の盛り上がり方というのが、学園祭の中にはあるように思えますね」と話したのは、学生時代に映画研究部として学園祭に参加し、現在、樟蔭高校で教師をしている渡會敦幸さん(43)だ。渡會さんは関大の学生ではなかったが、小学6年生のころから千里山キャンパスの近くに住んでいる。学園祭の喧騒がかすかに聞こえる距離だ。学生時代には図書館や学食などを利用したこともあるという。渡會さんは「大学が休みでも学生がいるという感じがあって、そういうのを見ているといい学校なんだろうなというイメージはありますよ」と話した。今となっては学園祭に足を運ぶということはない。「高校生に文化祭をやらせる側になると、机の上で学んだ知識をどうやって現実で利用するかを学んでほしいとも思うし、やるからには精いっぱい楽しんでいい思い出を作してほしいと思う」。自身の学生時代においても、学園祭は人間関係を学ぶ場としていい機会だったように思うと振り返った。



渡會 敦幸さん



開催できることの幸せ

学園祭のなかった世代がいる。関大の学園祭は第1回が大正15年10月。大運動場の完成を契機に始まったものであるが、昭和43年から45年の3年間については、学園紛争の影響を受けて実施されなかった。関大では、大学立法反対運動が紛争の直接的な火付け役となり、学生による大学封鎖や、学生鎮圧のために機動隊が導入されるなどして、とても学園祭が行われる状態ではなかった。

「あの時代は自分の意思表示をしないとノンポリと非難されるような部分が強かったからね」と、笑いながら懐かしむようだったのは、現在樟蔭高校で教師をしている山口和夫さん(59)だ。昭和44年に関大へ入学した山口さんは、最も学園紛争が激しかった時期に在学していた。山口さんは「高校の文化祭よりも大学の学園祭は自由な、大人扱いしてもらえるお祭りというイメージが強くて、やってみたいという気持ちはあった」が、今のように盛大な催しとして学園祭が行われることはなかったという。大学の学園祭を知ることではできなかったが、逆にイメージが崩れることがなかったのが良かったのかもしれないと感じているようだ。「この前、久しぶりに行くと大学の様子がだいぶ変わっていて驚きました。でも、今でも授業前に法文坂を走っていた記憶は残っていますね」と、にこやかだった。

学園祭は、人によっては大学の特徴を知る上での指標であり、学生は忘れられない思い出づくりの場、あるいは嗜好の休みととらえる。また、体験することができなかったイベントだという人もいる。学園祭との向き合い方は自由だ。今年も開催4日間と、その前後に問うてみたい。「学園祭とは自分にとって何か？」

(信高 佳澄)

関大生に聞きました!

あなたの生活や考えなどは「現代の関大カラー」に近いのか、それとも…。平成19年度学生生活実態調査の結果がこのほど、まとまりました。多岐にわたる項目の中から、いくつかピックアップ。調査結果と自分のスタイルを比較してみるのも面白いのでは。

課外活動に参加しよう

Q1 あなたは課外活動に参加していますか?

A1 参加しているのは55.2%

関西大学には体育会、文化会などの大学に登録している約150団体のほかに、大学未登録も約100団体以上あるといわれています。課外活動に参加していない人や、やめてしまった人も自分に合う団体がきっと見つかるはず。「ピア・サポート」活動に参加するのもいいかも。この活動は今年の後期からスタートなので1回生以外の方も気軽に参加できると思います。

関大生は節約家?

Q2 授業期間中におけるあなたの1カ月の支出(学費を除く)はいくらですか?

A2 4万円未満が37%

この結果は全国の学生から見ても極めて少ないです(全国平均で4万円未満は約20%です※1)。関大生はあまりぜいたくをしない節約家が多いようです。

関大生は困っています

Q3 凧風館2階食堂の座席数は足りていると感じますか?

A3 「足りない」と答えたのは76.5%

実際この調査の自由記述欄に食堂の座席数に関する不満が多く寄せられました。食堂の席がなかなか空かなくて昼休みの時間内で昼食を終えることができなかった人も多いでしょう。もう2カ所くらい食堂が増えれば…という感じも。皆さん、食堂の席はできるだけ譲り合って座りましょう。



今回、調査の中のほんの一部しか紹介できませんでした。3つの他にも興味深い結果が多く出ています。例えば「学生生活は充実しているか」という質問に対して関大生は67.4%が「充実している」「まあまあ充実している」との答えでした。全国平均の39.3%という結果から見てもはるかに高い数字です(※2)。学生時代にしかできないことを多く経験しましょう。もうすぐ学園祭です。ここでも関大パワーを発揮し、みんなで精いっぱい楽しみましょう。

※1、※2は平成18年度日本私立大学連盟実施の「第12回学生生活実態調査」による。平成19年度学生生活実態調査結果は、10月下旬に学生センターのホームページに掲載。



今回の調査で高槻キャンパスに対し「見捨てられた孤島」という表現がありました。確かに千里山と高槻各キャンパス同士の交流は残念ながらあまり見受けられません。高槻キャンパスの人は統一学園祭にぜひとも来てみてください!千里山キャンパスの人も10月31日(金)、11月17日(月)、12月16日(火)に高槻キャンパスでアイスアリーナのスケートリンク開放があるのでぜひ行ってみてください。



どこにある?

～みんなを救う水～

皆さんは関大に大きな井戸があるのをご存知でしょうか? 実は人知れず、千里山キャンパスの学生・職員に安全な井戸水を送り続けている働き者なのです。普段は飲料水としてキャンパス内の約70%を占める水を供給し続け、また災害時に備えて820トンもの水が、皆さんや近隣住民の安全を確保すべく貯水されています。停電時の場合でも尚文館及び凧風館のコージェネレーション(※)による発電で、井戸の汲み上げが可能です。

この「井戸」が凧風館横に設置されてから約3年。今では大阪府と連携し「災害時協力井戸」として登録されています(左上イラスト)。関大生と近隣コミュニティの安全のため、「みんなを救う井戸」は今日も休まず働いてくれています。皆さんも一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

- ※電気・熱・蒸気などを同時に発生させること。ガスタービンやディーゼルエンジンで発電する一方、その排熱を利用して給湯・空調などの熱需要をまかなうようなエネルギーの効率的運用システムのこと。



われ 夏休みに高校生の頃の友人に会った。違う生活圏にいるので、普段はなかなか会えない。それだけに近況報告や思い出話は尽きず、笑い懐かしさに溢れた、満ち足りた時間を過ごした。夏休みは旧友に会うのに最適な時期だ。なんだか、何歳にも戻れるような気がする。蝉の鳴き声、照りつける太陽、草の匂い。植物が一番活気づく。それに気圧されるような、触発されるような、何とも言えない気だるさと高揚感。いくつになっても変わらない、夏の午後。そこにかつての自分をよく知る友人がいる。当時のあだ名で呼び合えば、一種のタイムスリップをしたような感覚になれるのだ。通っていた高校は山の上であり、通学は駅から徒歩かバスで、私は歩く方を選んでた。30分

はかかるその道すがら、友人と毎日いろんな話をした。面白かったテレビの内容だったり、テストの話だったり、好きな人の話だったりした。歩き始めは朝ということもあり、そう暑くはないが、山を登りきるとじっとりと汗をかいていた。その中でたわいもない、だけど欠かせない話をしていた。毎日では会えなくなって、離れた場所で生活している。制服ではなく、思い思いの服装になっている。けれども、会って話すことはその頃と変わらない。阿吽の呼吸も、喋っているうちによみがえってくる。その日、帰り道で雨が降った。高校生のころからどちらも荷物になるから、傘が嫌だったことを思い出した。濡れながらはしゃいでいると、都会の真ん中であの頃の土の匂いを感じた気がした。(黒田和佳子)

学生支援室から

「学生支援室」って?

「学生支援室」とは、関西大学でのピア・サポート活動がより充実したものとなるよう、さまざまな企画をしたり、いろいろな調査をしたりするところです。スタッフ同士で助け合いながら、本格的な活動に向けた準備を進めているところです。

私たちの仕事はみなさんの活動のお手伝いをする事です。ピア・サポート活動の主人公はあくまで関大生であるみなさんです。みなさんのご協力を、スタッフ一同お待ちしております!

ワークショップ開催!

9月19日(金)にピア・サポート活動の実施に向けたワークショップを実施しました。他大学での取り組みについて学んだり、参加者同士で話し合ったりしながら、関西大学ならではのピア・サポート活動について考えました。



今後のワークショップの予定はホームページをチェック!

ピア・コミュニティルーム(仮称)完成予定!

ピア・コミュニティルーム(仮称)が凧風館1階に完成します。この場所は、ピア・サポート活動に関心のあるさまざまな人々が出会い、お互い協力しながらコミュニティを結成する場であり、各コミュニティの活動の場でもあります。この場所をどのように使うかはみなさん次第です。

活動は少しずつ始まっていますが、まだまだこれからです。ピア・サポート活動に少しでも興味のある人は気軽に顔を出してくださいね!

学生支援室RA 押江 隆(心理学研究科D1)